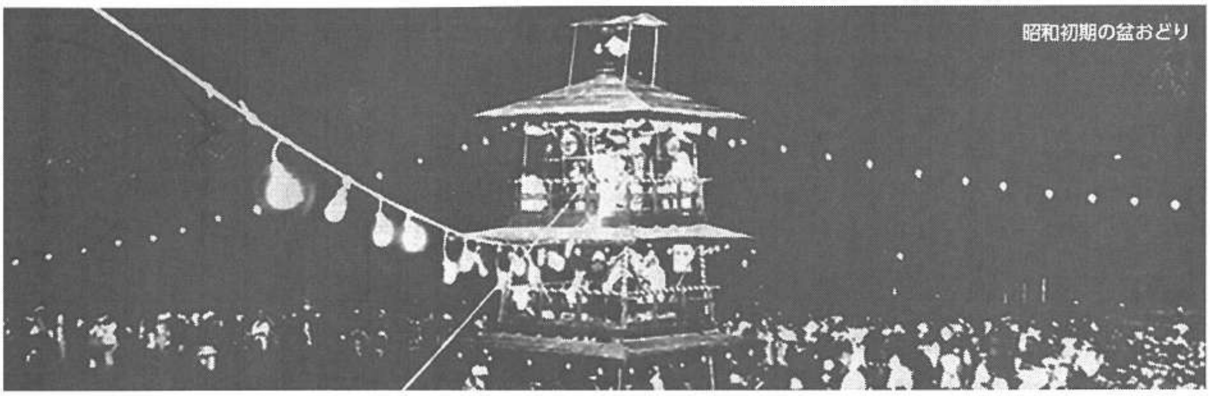
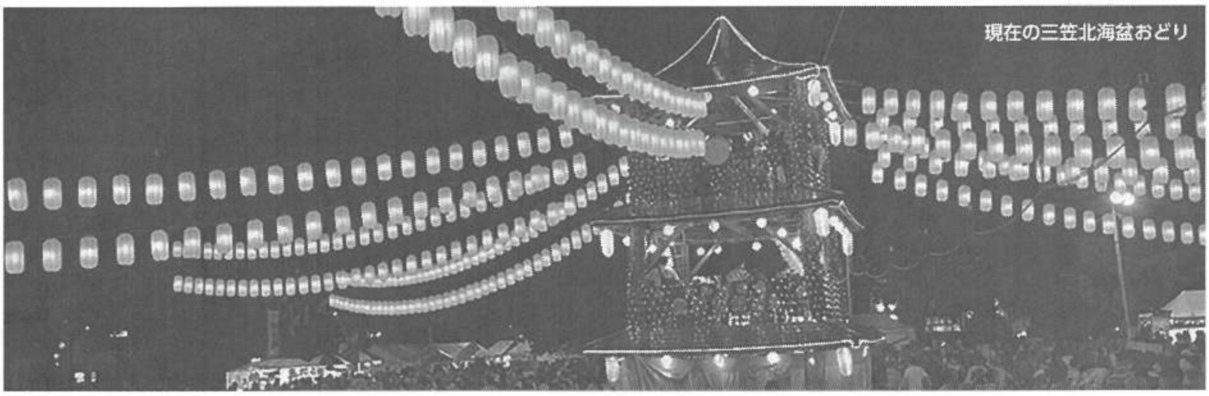
遺そう守ろう北の歴史と文化財　（一財）北海道文化財保護協会　Hokkaido Cultural Property Protection Association

文化情報

会報　Vol.405
令和７年９月１日発行
SINCE 1961
一般財団法人
北海道文化財保護協会

〒060-0002 北海道札幌市中央区北２条西７丁目　かでる２･７ビル９階　電話･FAX；011-271-4220
Website；https://hokkaido-bunkazai.jp　E-mail；bunho@abelia.ocn.ne.jp


昭和初期の盆おどり


現在の三笠北海盆おどり

炭鉱とザ・ドリフターズと三笠北海盆おどり

三笠市中央公園には、「北海盆唄発祥之地」碑を建立しているほか、炭鉱全盛期に踊っていた盆踊りを再現すべく、高さ約８ｍの巨大３層櫓を常設しています。

「北海盆唄」のルーツは、三笠市幾春別地区の盆踊りで炭鉱労働者が唄っていた「べっちょ節」と呼ばれる卑猥な歌詞を持つ唄がはじまりで、老若男女が輪になって朝まで踊り明かす男女の出会いの場でもありました。

太平洋戦争後（１９４５年８月）「北海民謡の父」といわれる今井篁山（いまいこうざん）が歌詞・曲調を見直し、「北海炭坑節」として広く世に出し、三橋美智也の歌によりレコード化、大ヒットしたことをきっかけに全国に普及しました。

さらに、ザ・ドリフターズが『ドリフ音頭北海盆歌より』の曲名で替え歌（作詞：なかにし礼）を歌い、『８時だョ！全員集合』の番組用に歌詞を変えた曲（作詞：上野玲児）がオープニングテーマ曲として採用されたことにより、その曲調が大人から子どもまで耳になじみのあるものとなりました。

平成14（２００２）年「第１回三笠北海盆おどり」を開催した際には、北海盆唄を全国に広めたザ・ドリフターズの高木ブーさんをゲストとして招待し、多くのお客様にご来場いただきました。

毎年三笠市で７月中旬に開催する「北海盆唄全国大会」の優勝者は、その年に開催する三笠北海盆おどりで巨大櫓にのぼり、生演奏をバックに「北海盆唄」を披露しています。この「生唄」「生演奏」に合わせ、踊り手たちが幾重にも輪になり踊る姿は、まさに三笠の風物詩。老若男女が一体となって踊るその光景は、地域の絆と伝統の力を感じさせてくれます。

北海盆唄発祥の地で毎年８月13日～15日開催している「三笠北海盆おどり」は、地域の文化として根づいてきています。是非一度お越しください。

（三笠市教育委員会社会教育課生涯教育係長　樋口幸絵）